

畿央大学

健康科学部

人間環境デザイン学科

第16回 卒業制作・論文作品集

卒業制作・論文作品集 16

畿央大学健康科学部
人間環境デザイン学科
2021

ご挨拶

第16回卒業制作・論文作品集には、この春卒業する人間環境デザイン学科の卒業制作と論文の作品が収録されています。

コロナウイルス感染拡大防止のため対面でのコミュニケーションが制約される期間が続き、卒業研究の出来映えがどうなるか懸念していました。しかしながらこの作品集にまとめられているように制作物や発表は昨年に比べさらに進化したように思います。

創作活動においては、考えていることやアイデア、調査分析の結果など各自の頭の中にあるイメージを具体的に表現することが求められます。そして、具体化した作品や発表は、それを見る人・使う人がどのようなイメージをもってそれらを受け入れるかを想像することが必要です。当然のことながら両者には違いがあり、そのギャップを埋める努力を続けるプロセスにより、素晴らしい作品が出来上がります。そして、自己の表現力を磨き上げるにより、人に感動を与える「美をつくる」境地に達します。

卒業される皆さんは、政治経済が世界規模で転換する未来社会の中で、幅広いデザインの分野で活躍されることとなります。人工知能(AI)に負けない感性・知性を磨き続け、表現力を高め、さらに成長されることを期待します。

何年か先にこの作品集を開くことがあれば、その時にはご自身が成長したことを確信され、同時に学友の顔を懐かしく思い起こすでしょう。

最後に、卒業に至るまで皆さんのお一人おひとりの個性を尊重してご指導いただいた先生方にお礼を申し上げますと共に、卒業後も引き続き良き絆を保たれることを願ってご挨拶といたします。

畿央大学 学長

冬木 正彦

卒業制作



- | | | | |
|----|-----|--------|--------------------------------------------|
| 8 | 学長賞 | 中山 瑞貴 | みんなのがっこう ～地域住民交流・生涯学習拠点～ |
| 12 | 優秀賞 | 稲葉 涼 | 幻の日本茜 ～愛された古代色と新たな茜色～ |
| 14 | 優秀賞 | 澤田 実花 | 地方で暮らし、近くで働く。 |
| 16 | | 亀岡 功嗣 | 門小屋のある暮らし |
| 17 | | 麻田 彩花 | 街灯のない住宅街 -暮らしからもらえる灯りのまち- |
| 18 | | 稲田 千映 | ぱすたいむ ～みんなのたまり場～ |
| 19 | | 入野 希世妃 | 街の中の音風景 ～サウンドスケープ～ |
| 20 | | 上田 颯希 | 続く、和 ～これまでと、これから～ |
| 21 | | 内田 京花 | 綿の種類とその特徴 -調査 観察 簡易実験の結果より- |
| 22 | | 梅林 沙采 | Aurora Box ～オーロラアクリルでつくるワードローブ～ |
| 23 | | 大久保 萌恵 | 高い暮らし ～4軒長屋の再生計画～ |
| 24 | | 大櫛 夏音 | The beautiful 桑 dress ～Reborn～ |
| 25 | | 大嶽 慧 | 本の駅 Book Station ～曲川集落の本の居場所計画～ |
| 26 | | 岡所 絵里奈 | 1ROOM -パブリックもプライベートも快適に過ごせる工夫- |
| 27 | | 岡村 祐希 | 「だんじり」が出迎え、見送る伊賀上野の玄関口 |
| 28 | | 岡本 萌禪 | 鹿明燈・鹿影燈 ～奈良の木材と和紙を活かす工芸を用いた光と影の照明～ |
| 29 | | 柿本 菜月 | 実の成るすみか ～失業者支援に向けたシェアハウス～ |
| 30 | | 鍵山 涉真 | 明日香人になる日 |
| 31 | | 櫃山 知花 | 墨と染める思い出の色 |
| 32 | | 勝屋 翔太 | Accordion Office |
| 33 | | 川西 梨々花 | MOMIJI Stool ～レジンで秋を封じ込めて～ |
| 34 | | 木崎 一朗太 | ツカズハナレズ -個が光るシェア- |
| 35 | | 北田 しほり | 奈良の木材を活かす工芸を用いたペンダントライト |
| 36 | | 北野 芹香 | Galaxy 佐賀錦・思い描いた宇宙を目指して |
| 37 | | 木村 瞳 | Sky STATION |
| 38 | | 木場 美海 | ピタゴラスポット |
| 39 | | 佐々木 優帆 | つながりとなじみを彩る家具 ～サードプレイスの新しいスタイル提案～ |
| 40 | | 佐々木 リカ | 宿り・働き・楽しみ in 淡路島 ～ワーケーションの海岸別荘計画～ |
| 41 | | 清水 淑加 | 焼き菓子や 悠悠 -高齢単身世帯空き部屋の利活用- |
| 42 | | 周藤 希実 | 「桜井民家」での住み熟し ～多世代を繋ぐ農家建て住宅の改修計画～ |
| 43 | | 砂田 菜摘 | 尾道駅前広場計画 -駅とつながる広場- |
| 44 | | 高橋 颯 | 自ら学ぶ意欲が創出される学校 |
| 45 | | 津瀬 彪磨 | Siesta Bed ～ペーパーコードが織りなす最高の15分～ |
| 46 | | 土佐 竜也 | Dorokawa Camping Life・洞川野営生活 ～集落型キャンプ場の計画～ |

47	富永 健悟	まるごと味わう 明日香の里 ～既存集落に点在する空き家群を一つの宿とする～
48	中島 稜	駅社町 ～地域資源としての無人駅の利活用～
49	中林 ゆき	日常の中の非日常な空間づくり - 時代に伴うマントルピースの多様化 -
50	中道 陽夏	田舎へ移住しよう - コーポラティブランド -
51	中村 尚樹	学びの杜
52	八田 采芽	アオパナの挑戦「消えるから残すへ」
53	原田 葵	The long, sweet day of the side walk cafe
54	廣原 雅大	避難所になる体育館
55	細田 日向子	もう森へ帰ろうか? - 森の中の都市 -
56	細見 菜月	公民館とこども園の複合施設 みんなのたまり場
57	前田 瑠唯	ニューノーマルに対応する家具 ～曲輪の新たな可能性～
58	松村 溪	畿央大学五位堂駅前サテライトキャンパス
59	三浦 彰希子	Spread Life ～もっと感じる家族のぬくもり～
60	壬生 知里	廃工場で見つけた宝物 ～裂織と絹で織りなす反物ドレス～
61	山口 剛人	貫縁台バス停 ～明日香村岡寺前バス停の計画と実作～
62	山田 向日葵	リモートボックスになるダイニングセット
63	和田 沙衣香	学びへ繋ぐ綿刺し子 ～家庭科のよりよい授業を目指して～

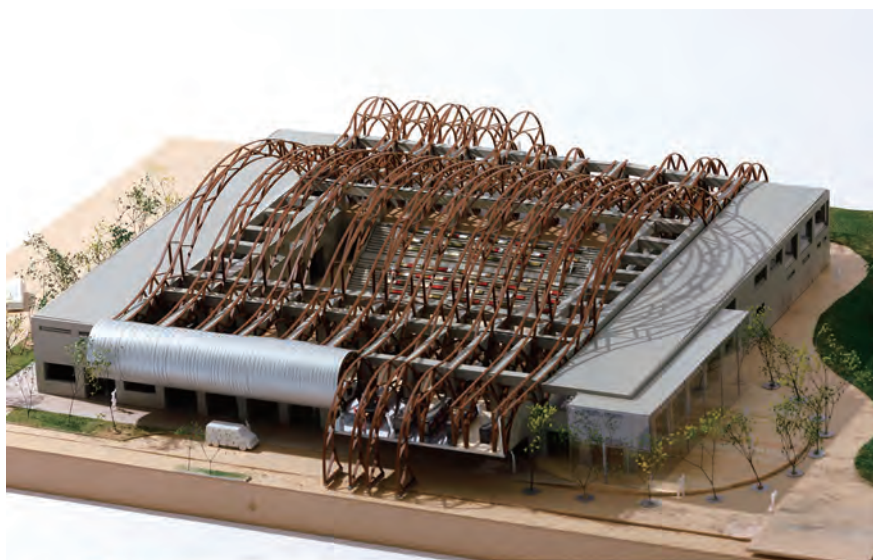
卒業論文



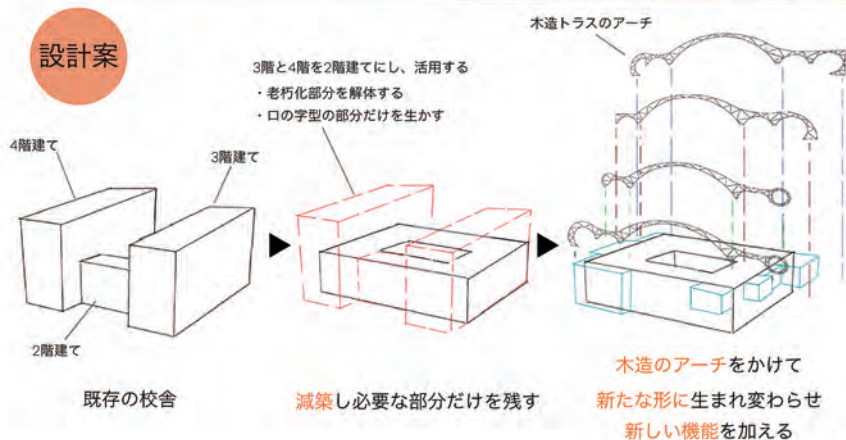
66	優秀賞	北尾 舞乃	奈良県における廃校小学校の現状と廃校後の校舎の利活用に関する研究 ～奈良県下における全自治体へのアンケート調査を通して～
67		志岐 英也	地域における色彩表現を用いたピクトグラムに関する研究 - 奈良公園と大阪城公園を中心に -
68		荻田 佑里子 高田 みき	コロナ禍を通しての居住環境整備に対する若者の意識調査
69		大隈 天斗	広陵町を事例とした住民自治基本条例の制定初期における 一般住民の周知に関する研究
70		松村 成貴	マスク着用が作業成績や心理状態に与える影響
71		桐間 康彰	高齢者の熱中症予防に向けた室内環境可視化ツールの検討
72		小石 秀佳	商店主の意向調査に基づく商店街の将来像に関する研究 - 奈良県桜井市本町通商店街を事例として -
73		正楽 仁哉 森田 舜	多世代交流拠点の運営 ～コロナ禍二年目・対面での活動報告～
74		萩原 智輝	中古戸建住宅に対する認識の実態および意識変化に関する研究 ～近畿地方における20歳代若者を対象として～
75		豊島 かれん 中井 博介	奈良及び京都における景観色彩に関する研究
76	制作風景	78 講評会風景	80 選抜講評会
		82 展示会	84 ゼミ集合写真
		86 教員講評	

卒業制作

陳
西山
林田
藤井
三井田
村田




設計案



【学長賞】

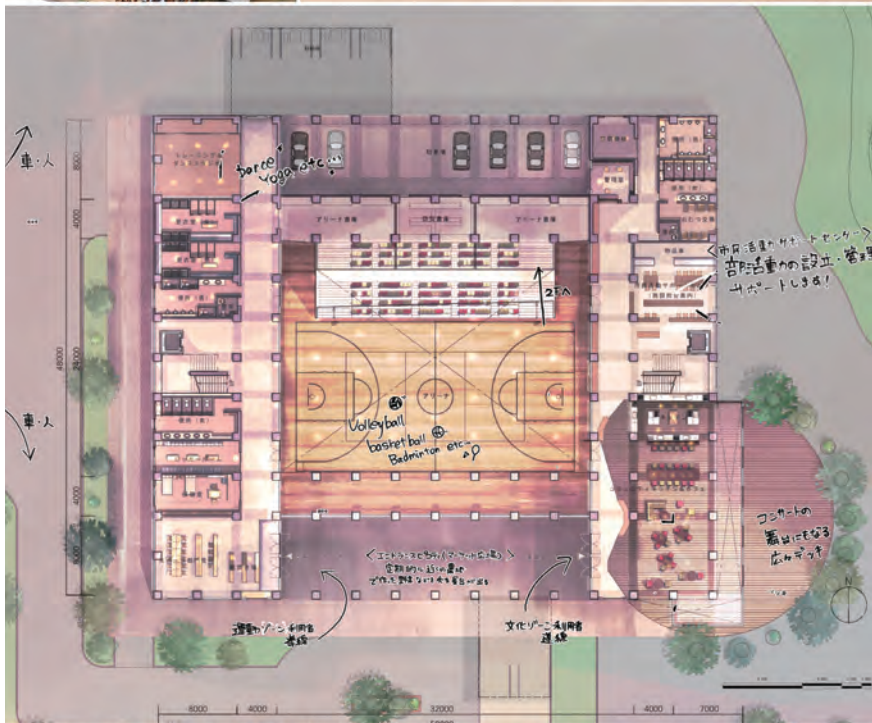
みんなのがっこう ～地域住民交流・生涯学習拠点～

中山 瑞貴
Mizuki Nakayama

三井田ゼミ 

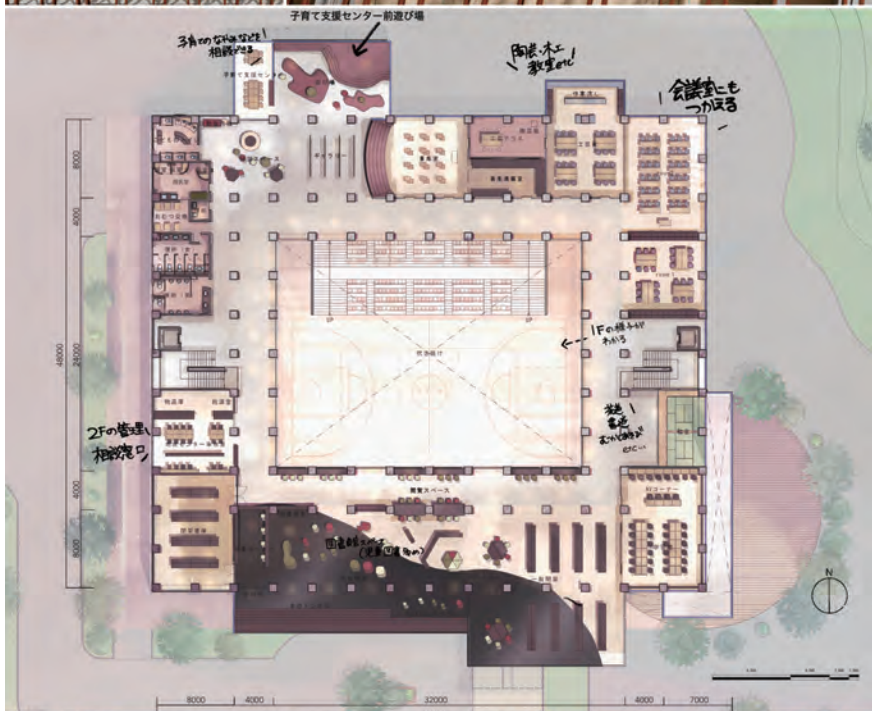
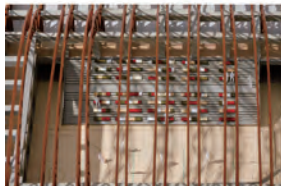
廃校となり利用機会を失った校舎を必要な部分だけ残し大屋根をかけ、地域の為の生涯学習・コミュニティ形成の拠点、“がっこう”に生まれ変わらせる。“がっこう”では多世代が“ぶかつどう”を通して交流していく。

1F 運動部 ゾーン



制作

2F 文化活動 ゾーン



親子が本を読んでいる様子

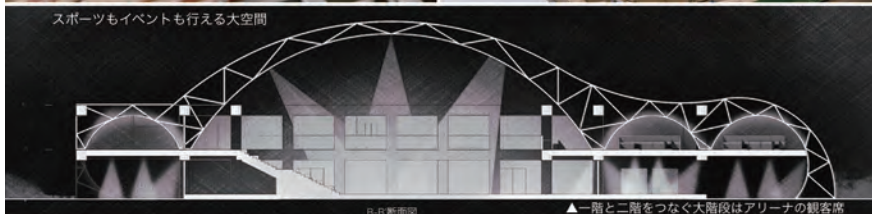
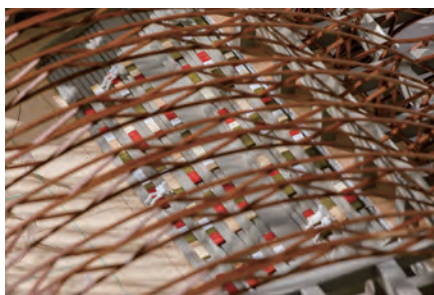


読書スペース

本棚のトンネルでいるんな本に、上会う人々の様子



本棚のトンネル



受賞のことは

この度は学長賞を頂き、心を込めて制作した案に共感して下さったことを大変嬉しく思います。お忙しい中、時間を割いてエスキスをして下さった三井田先生、質問したら親身になって答えて下さった人間環境デザイン学科の先生方、屋根のレーザーカットをして下さった前田木材工業様、忙しいと嘆いている時に優しく見守ってくれた家族、同じ期間一緒に頑張ってきてくれた同期の皆、ここに載せきれないほど多くの方に助けられ、感謝してもしきれません。4年間この場所で学ばせていただいた事をこれからの歩みに生かしていきたいと思ひます。本当にありがとうございました。



【優秀賞】

幻の日本茜 ～愛された古代色と新たな茜色～

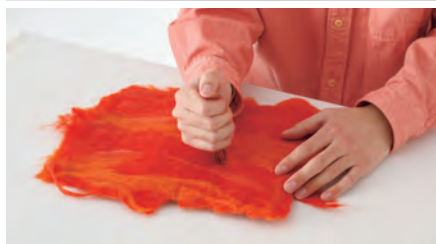
稲葉 涼

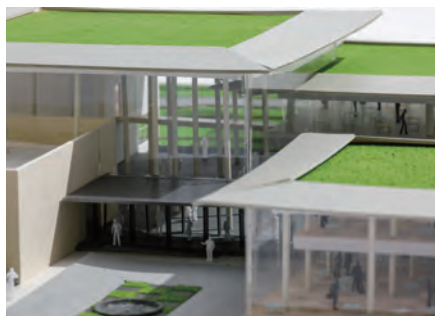
Ryo Inaba

村田ゼミ



日本茜の染色をテーマに、ウールでフェルトコートを作した。
希少で量の限られた染料を使い、何度も染色試験を重ねる中で、様々な色を抽出することに成功した。
日本茜から得られた色を全て有効活用し、迫力のある作品に仕上げた。



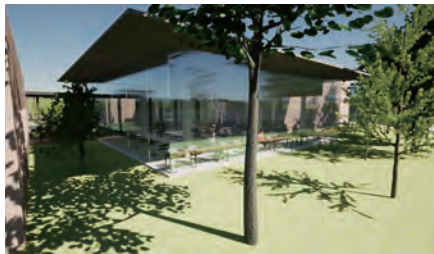


【優秀賞】
地方で暮らし、近くで働く。

澤田 実花
Mika Sawada

藤井ゼミ 

地方へ移転する小企業や大企業の一部門、また、自宅外で働くソロワーカーの、就労場所を提供する。地域でのオフィスワークの核として、業務の効率性を上げると共に、他社他者との偶然的出会いによるコミュニケーションとイノベーションにも期待した。




制作



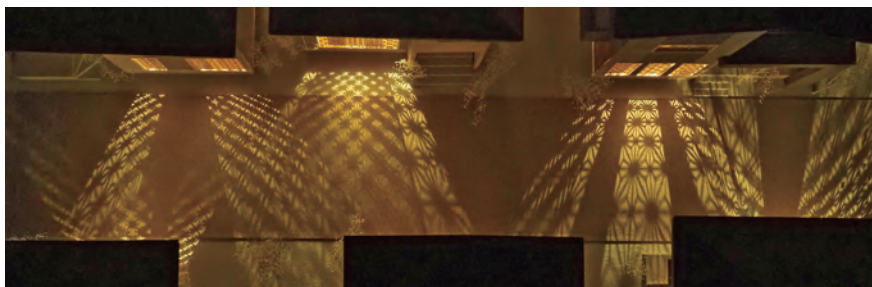
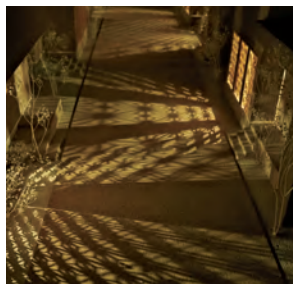


門小屋のある暮らし

亀岡 功嗣
Koji Kameoka

陳ゼミ 

現代日本のミニ開発による住宅地の、街並みとしての統一感の無さ、前面道路に対して過剰にオープンなために、大窓や前庭などを開放的に使えていない等の問題に対し、家の前面に構える家屋「門小屋」を設置することで新しい暮らしを提案する。



街灯のない住宅街 - 暮らしからもれる灯りのまち -

麻田 彩花
Ayaka Asada

藤井ゼミ 

住宅街の殺風景な街灯を無くし、暮らしからもれる灯りで道を彩る。時間によって、室内を光源とする格子からのびる影と、格子を光源とした間接照明の2種の灯り。また、内外の視線の交錯を避けるため、複数の格子の柄を使い分けた。

図書室



教室



アトリエ



ゲーム



ぱすたいむ ～みんなのたまり場～

稲田 千映
Chie Inada

西山ゼミ 

共働き家庭や貧困家庭が増えてきていることによって、放課後一人で過ごしている小学生が増加している。そこで、「学ぶ」「遊ぶ」「食べる」を通して、放課後を楽しく過ごし、子どもの自主性や創造性を育めるような施設を制作をしました。



街の中の音風景 ～サウンドスケープ～

入野 希世妃

Kiseki Irino

三井田ゼミ 

“海の音、風の音、楽器の音色、音楽が風景である”

音楽堂から見える海、飛行機、夕日。

景色が音楽に彩りを加え、音楽が心に彩りを加える。

公園の木々に囲まれ、海の音が、日々の疲れを癒すような空間を。

松-MATSU-

和の雰囲気を楽しめる
和型和モダンタイプ



銀杏-ICHO-

家具に藤家具を使用している
折衷型和モダンタイプ



紅葉-MOMIJI-

柱や家具などシックな印象の
洋型和モダンタイプ



続く、和 ～これまでと、これから～

上田 颯希
Satsuki Ueda

西山ゼミ

これまでのように和のぬくもりを身近に感じ、これからも生活することが出来る。
これまで上げた人との輪を、これからは新しい仲間と広げることが出来る。
新たな生活を今までの続きとして、過ごすための高齢者施設。



綿の種類とその特徴 -調査 観察 簡易実験の結果より-

内田 京花
Kyoka Uchida

村田ゼミ 

私たちの衣類の中でもっとも身近な素材である綿。綿は生産地によって名称や特徴が異なる。
4種類の綿を実際に栽培し、観察・糸紡ぎ・簡易実験を行うことで、それぞれの綿の特徴を明らかにした。



Aurora Box ～オーロラアクリルでつくるワードローブ～

梅林 沙采
Saya Umebayashi

林田ゼミ 

アクリル板にダイクロイックフィルムを貼った「オーロラアクリル」でワードローブを制作。
自分の大切な洋服がオーロラに守られているような、不思議な感覚になるインテリアエレメントです。



商い暮らし ～4軒長屋の再生計画～

大久保 萌恵
Moe Okubo

陳ゼミ

「商い暮らし」とは


- 1階の土間で小さな商いをし、
- 2階で暮らすような、昔からある、小さなつながりを大切にする暮らし方。

ここでは自分の家族をモデルとし、
小さな家が連なった「商い暮らし」を提案します。



The beautiful 桑 dress ~ Reborn ~

大櫛 夏音
Kanon Ogushi

村田ゼミ 

お蚕さんが生み出す絹を素材にした。
餌の季節が終わると用がなくなる桑の葉、そして茎、実を染料とし美しいドレスに生まれ変わった。
沢山の場面で着れるよう小物やインナースカートも制作。日々のお洒落を楽しんで。



本の駅 Book Station ～曲川集落の本の居場所計画～

大嶽 慧
Satoshi Otake

陳ゼミ 

人が出歩くことが少なくなった旧集落を、本を利用した新しいスタイルで街の魅力をつくりだす。
人と本、人と街、人と人を繋ぎ、そして、そこに訪れた人と住民が共に街のシンボルを次の世代に継承し守っていく。

水回り独立 居室内にキッチン型

【特徴】

居室からキッチンと廊下に出るため、アクセス数は2。

居室内にキッチンがあるため、キッチンに対して空間を分ける。

→キッチンに対しては、仕切る強さが強い「B.一部に壁」を用いて空間を分割する。

→ワークスペース、リラクスペースは、「C.低い間仕切り」を用いて空間を分割する。

ウォールラックでベッドスペースとキッチンスペースを分ける。

低い棚でワークスペースとリラクスペースとを分ける。

【スペースの活用の例】

ウォールラック
ラグ
低い棚

- ● ● ワークスペース
- ● ● ベッドスペース
- ● ● リラクスペース

ウォールラックでベッドスペースとキッチンスペースを分ける。

低い棚でワークスペースとリラクスペースとを分ける。

【スペースの活用の例】

ウォールラック
ラグ
低い棚

- ● ● ワークスペース
- ● ● ベッドスペース
- ● ● リラクスペース



1 ROOM

- パブリックもプライベートも快適に過ごせる工夫 -

岡所 絵里奈
Erina Okasho

西山ゼミ

コロナ禍によって、家で仕事や授業をするようになり、特にワンルームの住戸では気持ちの on・off の切り替えがしにくいと考えました。そこで、家具で部屋の領域分けをし、仕事の時間も趣味などの自分の時間も快適に暮らせる工夫を提案します。



「だんじり」が出迎え、見送る伊賀上野の玄関口

岡村 祐希
Yuki Okamura

三井田ゼミ



駅はいつもまちの顔となり、人々の記憶に残る場所となってきた。

日常利用する人々やまちを訪れる人々等すべての利用客の印象に残る「シンボル」としての駅をデザイン。出会い、別れの場として人々が思い出を紡ぐ。



鹿明燈・鹿影燈

～奈良の木材と和紙を活かす工芸を用いた光と影の照明～

岡本 萌樺

Moka Okamoto

西山ゼミ

奈良の木材と和紙を用いた光と影の照明を制作した。

光の照明は鹿明燈(ろくめいとう)、影の照明は鹿影燈(ろくえいとう)。

奈良県の技術をより身近に感じてもらうため手で触って楽しめる工夫を取り入れた。



実の成るすみか ～失業者支援に向けたシェアハウス～

柿本 菜月
Natsuki Kakimoto

西山ゼミ


コロナ禍による失業者に向けたシェアハウスを計画した。
高齢化社会において人手不足に悩む介護業界へ転職するための支援を行う。
同じ目標を持つ者同士の共同生活を通し、新たな自分への第一歩を送り出す。



明日香人になる日

鍵山 渉真

Shoma Kagiya

三井田ゼミ 

明日香村にある自然が豊かなゆったりとした空間。
観光客やリフレッシュ目的で訪れた人たちが、明日香村での一日の生活をまるごとその場所で味わうこと
のできる、明日香村の奥地にある集落をイメージした宿泊施設。



墨と染める思い出の色

檀山 知花

Tomoka Kashiya

村田ゼミ

1380粒の蒭から糸を引いた。

染色材料として、大学時代を過ごした奈良の墨と実家近くの思い出の桜を選んだ。
墨を磨り、桜の枝を煮出し、染め、織り、優しい色味の着物に仕上げた。



Accordion Office

勝屋 翔太
Shota Katsuya

林田ゼミ 

2020年から流行している新型コロナウイルスにより在宅ワークが今でも推奨されている。そこで自宅内でもプライバシーの確保のできる場所を作ろうと思い制作した。これがあれば自宅で周りを気にせず会議ができるだろう。



MOMIJI Stool ～レジンで秋を封じ込めて～

川西 梨々花
Ririka Kawanishi

林田ゼミ




「鑑賞×使用」というテーマで、椅子とオブジェ両方の役割を担うデザイン性あふれるスツールになっている。和風・レジン・ヒノキの異素材を用いて、煌びやかさを表現。SANAAの「ラビットチェア」がインスピレーション。



ツカズハナレズ - 個が光るシェア -

木崎 一朗太
Ichirota Kizaki

西山ゼミ 

「シングルマザー」と「シェアハウス」という近年増加傾向にある2つの要素を組み合わせた住宅の設計。「ステージ」が広がるプランで特有の孤独や悩みを感じやすいシングルマザーにも前を向き仲間とステップアップしてもらいたいという思いで設計しました。



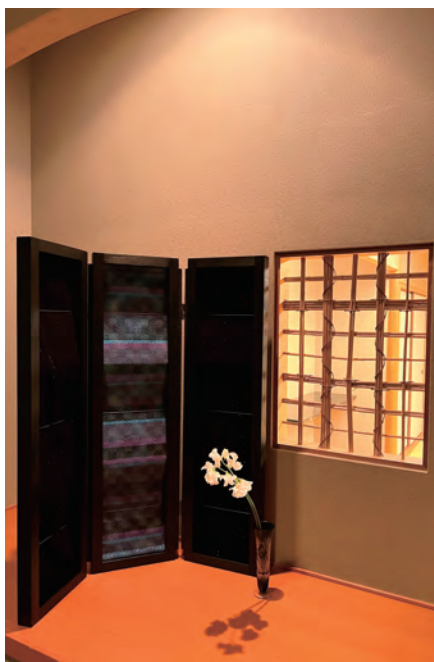
奈良の木材を活かす工芸を用いたペンダントライト

北田 しばり
Shihori Kitada

西山ゼミ



伝統工芸と奈良の木材を北欧スタイルと掛け合わせた。
マリメッコのウニッコを透かし彫りで表現し、吉野杉と手漉き和紙ならではの温かみがある照明に。
灯りのドレスという意味の valoa+mekko で valomekko と名付けた。

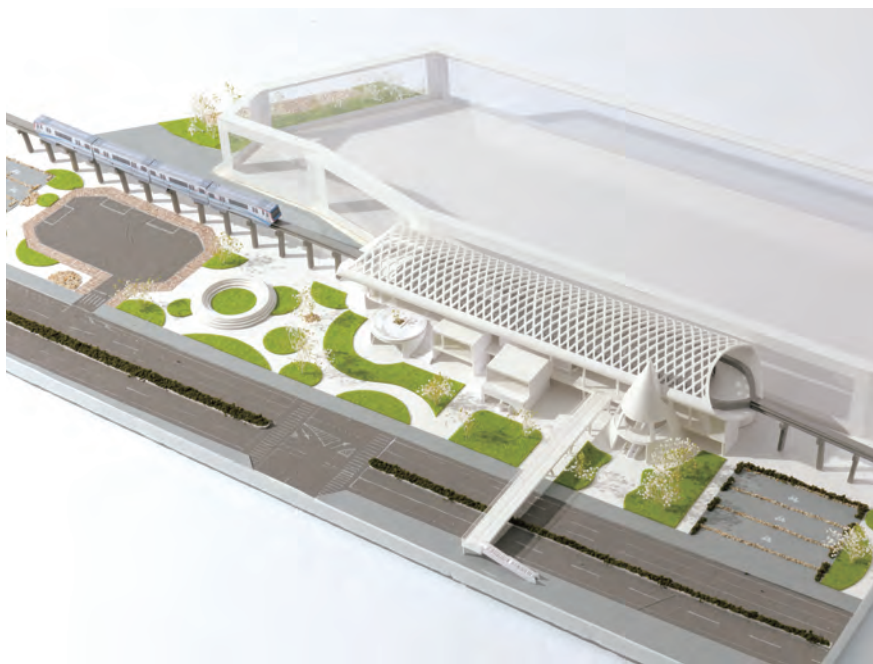


Galaxy 佐賀錦・思い描いた宇宙を目指して

北野 芹香
Serika Kitano

村田ゼミ 

約5ヶ月かけて織りあげた佐賀錦をカットせずそのまま使い、光が当たるとキラキラと輝く特長を最大に活かせる屏風を作った。屏風の3面の個々の面を銀河と捉え、一つ一つの銀河が全て合わさった3面で私の思い描く宇宙を表現した。

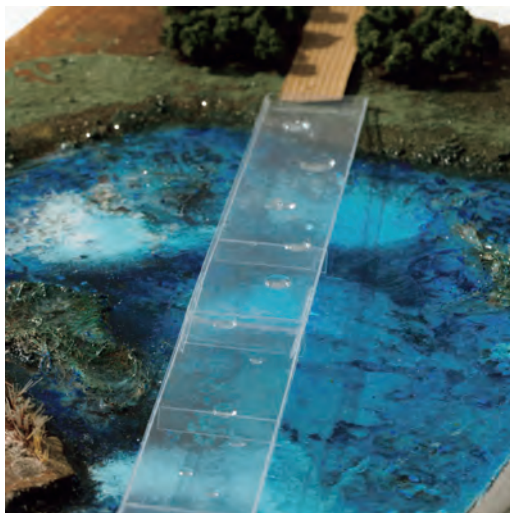


Sky STATION

木村 瞳
Hitomi Kimura

三井田ゼミ

地域に根ざした商業施設が閉鎖し寂しい状態を打開するために、モノレール駅と地域密着型商業施設を融合した地域の顔となる近未来的な駅を建設することで、地域のにぎわい場をつくる。

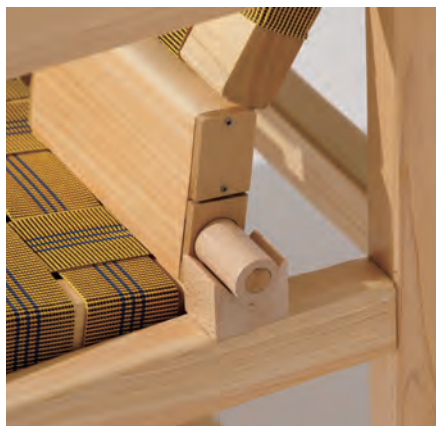


ピタゴラスポット

木場 美海
Minami Koba

陳ゼミ 

ピタゴラスポットは自然のなかにある。
そのなかには人の視界や気持ちを動かす装置を置くことで自然の見え方が変わり、
来た時よりhappyな気持ちをもってもらうスポットです。



つながりとなじみを彩る家具 ～サードプレイスの新しいスタイル提案～

佐々木 優帆
Yuho Sasaki


林田ゼミ 

家や学校ではない居心地の良い場所、サードプレイス。
そこに、自分で場所を作り上げる楽しさという新しいスタイルを提案したい。
居心地の良さに大切な「つながり」と「なじみ」の要素を取り入れた家具を制作した。



宿り・働き・楽しみ in 淡路島 ～ワーケーションの海岸別荘計画～

佐々木 リカ
Rika Sasaki

陳ゼミ 

Work (仕事)とVacation (休暇)の造語“ワーケーション”。
コロナ禍によるストレスや日常の悩みを自然との共生による非日常の暮らしが、
より安心して快適な旅を実現し大きなやすらぎと癒しを生み出す。



焼き菓子や 悠悠 - 高齢単身世帯空き部屋の利活用 -

清水 淑加
Hideka Shimizu


陳ゼミ 

旧街道沿い集落に建つ民家の空き部屋を利活用。
「世帯主の高齢者」と「焼き菓子屋開業を望む若者夫婦」の店舗付き異世帯住宅を提案します。
悠悠とした二世帯の共生。



「桜井民家」での住み熟し ～多世代を繋ぐ農家建て住宅の改修計画～

周藤 希実
Nozomi Sudo

陳ゼミ 

世代を越えて住み継ぐ古民家改修を提案。
核家族化や少子高齢化などの社会問題が深刻化する現代で、介護だけでなく、教育面でも世代を越えて家族で支え合うことが重要となる。また、空き家問題も目立ち減少傾向にある日本の伝統家屋を継承することも目的としている。



尾道駅前広場計画 - 駅とつながる広場 -

砂田 菜摘

Natsumi Sunada

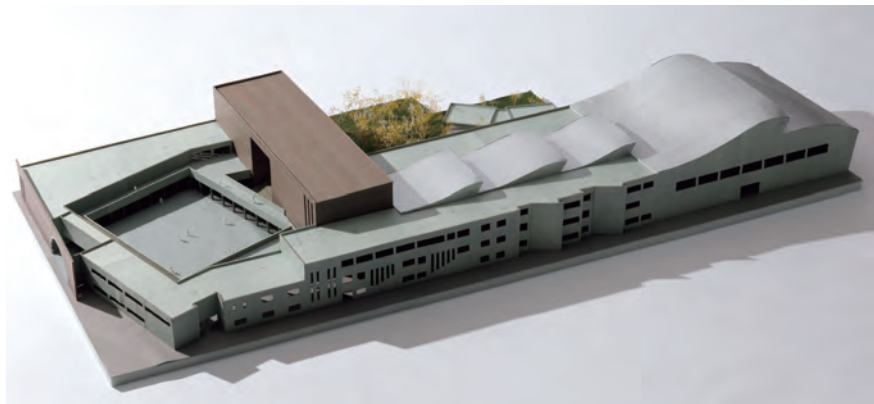
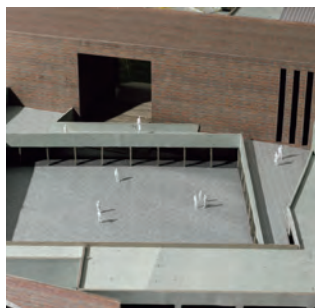
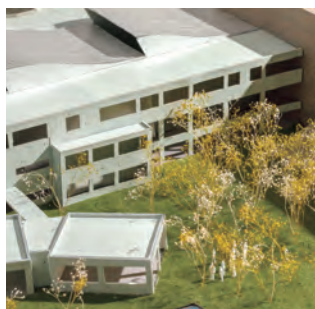
藤井ゼミ



横断歩道を介さず、駅と繋がる駅前広場。

駅と広場を二分する国道に橋をかけ、2つの地と橋を一体とした大きな広場を提案。


エントランス、店舗、自由広場とエリアごとに内容を分け、場所性を持たせた。



自ら学ぶ意欲が創出される学校

高橋 颯

Hayate Takahashi

三井田ゼミ 

調べる、学ぶ、発表するという一連の学習を効果的に行い、学びに対する主体性を育む中学校。主役である子供の視点から学校施設をとらえ、一人一人が居場所を見つけることができる学校を豊かな自然を利用し目指す。

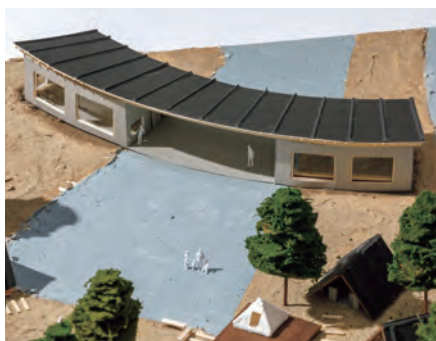


Siesta Bed ～ペーパーコードが織りなす最高の15分～

津瀬 彪磨
Hyoma Tsuse


林田ゼミ 

午睡専用の安楽椅子を作成しました。
中立姿勢を参考にした角度とペーパーコードの包み込むような寝心地、
檜の素晴らしい香りと共に最高の15分をお過ごしください。



Dorokawa Camping Life・洞田野営生活 ～集落型キャンプ場の計画～

土佐 竜也
Tatsuya Tosa

陳ゼミ 

集落のような風景をもたらす、連なる10寸勾配の屋根。
キャンプ場での生活はコミュニティがたくさんあり『会話』『自由』『自然』『開放的な空間』が溢れる、
みんなが楽しめる『Camping』施設。



まるごと味わう 明日香の里 ～既存集落に点在する空き家群を一つの宿とする～

富永 健悟
Kengo Tominaga

三井田ゼミ 

集落全体を非日常の癒しの空間としたい。時間を忘れ、ゆったりとした時が流れるような空間を。
日本の美しい情景を味わえる空間に。
名前の知られていない場所で古くから残された日本の美しい情景を味わえる空間を。

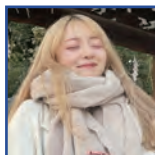


駅社町 ～地域資源としての無人駅の利活用～

中島 稜
Ryo Nakajima

林田ゼミ 

堺市東区を中心に位置する萩原天神駅は、隣接する萩原神社参拝を目的としてつくられたが、無人駅となり人だまりが少ない。そこで駅周辺の地域資源を活用し、駅舎を中心とした狭域的な地域コミュニティを提案する。



日常の中の非日常な空間づくり - 時代に伴うマントルピースの多様化 -

中林 ゆき
Yuki Nakabayashi

林田ゼミ

マントルピースとは、初期は暖炉の焚口を囲む装飾品であったが時代と共に多様化し用途が変化している。この制作ではアール・ヌーヴォー様式の装飾や引き出しを付け進化するマントルピースを制作する。



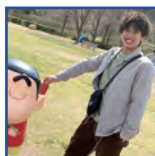
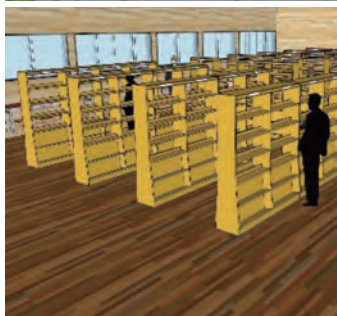
田舎へ移住しよう - コーポラティブランド -

中道 陽夏

Haruka Nakamichi

藤井ゼミ 

田舎へ引っ越したいがひと家族だけでは少し心細い数家族が、
共に家を作るコーポラティブハウスの戸建て住宅版。
農村景観への配慮や、地域コミュニティとの近すぎず遠すぎずの距離感も重視した。

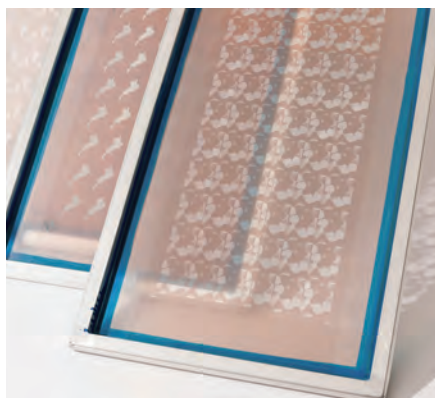


学びの杜

中村 尚樹
Naoki Nakamura

三井田ゼミ 

生徒にとって大切なものは学びである。
1人で学んでいくのではなく他の生徒や先生たちと共に学んでいく。
今までのコの字型や口の字型の校舎ではなく自然に分散した教室で
自然と共に学び成長していける中学校とした。



アオバナの挑戦「消えるから残すへ」

八田 采芽
Ayame Hatta

村田ゼミ 

滋賀県草津市の名産品であったアオバナという花から得られる青色の染料の研究を行った。水溶性であるため、主に友禅の下絵用染料として消えるために利用されてきたものだが、今回、色を残し日用品の染めに利用するという挑戦をした。



The long, sweet day of the side walk cafe

原田 葵
Aoi Harada


西山ゼミ

住宅地に歩いて通えるワーキングスペースを計画しました。
仕事以外でも利用できる、タイトルのように、「歩道のカフェの長く甘美な一日」を過ごせる
フランスのカフェのように地域の人々のサードプレイスとなるように考えました。



避難所になる体育館

廣原 雅大
Masahiro Hirohara

藤井ゼミ 

2.3か月に及ぶ中長期の避難生活が行われることをあらかじめ想定し、一定の生活レベルを災害発生時から継続的に提供することができる避難所となるアイデアを詰め込んだ体育館を設計する。



もう森へ帰ろうか？ - 森の中の都市 -

細田 日向子
Hinako Hosoda


三井田ゼミ

私の思う「緑化」とは、道路沿いに植栽を施したり壁や屋上を緑化しただけの飾りのものではなく、野生の自然をできるだけそのままの姿で都市の中に増やすことである。人間に従属しない尊厳と畏敬の気配を帯びた自然の中での生活を提案する。



公民館とこども園の複合施設 みんなのたまり場

細見 菜月
Natsuki Hosomi

三井田ゼミ 

周辺施設から立ち寄れるよう、様々な場所から出入りを可能にした。
施設や大階段は、中庭に向けることで、自然と中庭にたまる。
また回遊性を持たせることで、全体を見渡し、自分のたまり場を見つけることができる。



ニューノーマルに対応する家具 ～曲輪の新たな可能性～

前田 瑠唯
Rui Maeda

林田ゼミ

新型コロナウイルスの発生、急速な感染拡大をきっかけに大きく変化したニューノーマル（新たな常識）なこの世界で新たに発生した課題をソフトではなくハード面である「モノ」で解決する事を目指した作品です。



畿央大学五位堂駅前サテライトキャンパス

松村 溪

Kei Matsumura

藤井ゼミ 

五位堂駅から大学までが遠すぎる！
 家でリモート授業を受ける環境が整っていない！
 コロナ禍の一人暮らしは寂しい！などなど。
 畿央生の不満をぎゅっと詰め込んだサテライトキャンパスを五位堂駅前に計画しました。



Spread Life ～もっと感じる家族のぬくもり～

三浦 彰希子
Akiko Miura

西山ゼミ

急速な高齢化に伴った高齢者住宅の需要に焦点をあて、賃貸の戸建て二世帯住宅とサービスセンターを計画する。高齢化した住宅街に拠点を置き、周辺の空き家を改築し年々数が増えることで、センターとの連携が強化された地域が広がっていく。



廃工場で見つけた宝物 ～裂織と絹で織りなす反物ドレス～

壬生 知里
Chisato Mibu

村田ゼミ



衣料ロスの観点から祖母の不要になった反物の有効活用を考えた。
東北地方には不要になった布を細く裂いたものを緯糸として織る裂織りという技法が伝わる。
今回はその裂織りを用いてドレスを制作することにした。



貫縁台バス停 ～明日香村岡寺前バス停の計画と実作～

山口 剛人
Taketo Yamaguchi

陳ゼミ 

観光地として多くの人々が訪れる明日香村のバス停をもっと利用してもらい、また近隣の人との交流を深めていただきたいと思います。日本の伝統的な木組みの建築工法で金物を使わない縁台です。

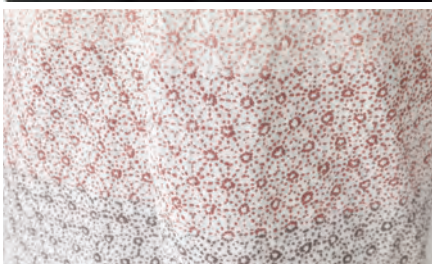
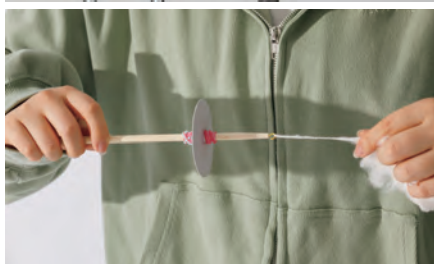
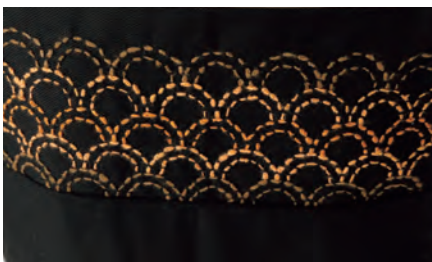


リモートボックスになるダイニングセット

山田 向日葵
Himawari Yamada

藤井ゼミ 

インテリアにおいて必需品であるダイニングセットをリモートボックスにすることで、最小限のスペースで自宅に設置することができる。
サイズも一般的な W1400×D800×H700 とほとんど同じにすることによって、使いやすく馴染みやすい。



学びへ繋ぐ綿刺し子 ～家庭科のよりよい授業を目指して～

和田 沙衣香
Saeka Wada

村田ゼミ

家庭科の授業での問題解決を目指して、「綿と刺し子」を取り入れる。
綿から糸を紡ぎ、その糸を身近な材料である玉ねぎの皮とアボカドの皮で染め、
刺し子を施し、生徒が目指せる作品を制作した。

卒業論文

李 林 西 陳 清 東
田 山 水



地域における色彩表現を用いたピクトグラムに関する研究 - 奈良公園と大阪城公園を中心に -

志岐 英也

Hidenari Shiki

李ゼミ



〈研究目的〉

ピクトグラムは、視覚記号の一つであり、絵文字、絵単語、図記号の総称で、事物の使い方や性質、状態の強弱や変化、統計数値の大小といった情報や符号を誰にでもわかりやすい単純な構図と明瞭な二つの色で表す。本研究では、奈良県、大阪府それぞれを代表する、奈良公園、大阪城公園、および、大濠公園（福岡県福岡市）の3つの公園内のピクトグラムに着目し、それぞれのピクトグラムの情報がより伝達されやすく、各地域にふさわしいピクトグラムの図色について検討を行った。

〈方法〉



図1 調査に用いた20種類の試料

予備調査から選定した各20種類のピクトグラムをAdobe illustratorにより作成し、SD法により、-2~+2の5段階で30名に評価してもらった。また、総合得点として5段階評価(1~5点)を求めた。

〈まとめ〉

主因子法による因子分析と因子得点結果から、因子2と因子3の因子空間上の因子得点分布図においてNo.14、No.5、No.3の試料で好き、美しい、上品と評価された。特に、試料No.3では評価性も連想性も高く評価され、イメージしやすい、印象に残る試料として受けとめられている。図3に示す総合得点結果からも一致する結果となった。一般的にピクトグラムは視認性、誘目性が重視されるが、被験者実験の結果からは彩度の高い暖色系の色に対する総合評価が高いとは言えない。このことから、視認性、誘目性が評価されているものの、公園と地域性というイメージによる影響が大きいことが明らかになった。

表1 バリマックス回転後の因子負荷量【全体】

評定尺度	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
無難なイメージ	-0.281	-0.011	-0.272	0.270	0.173
嫌い-好き	0.214	0.208	-0.027	0.153	0.259
目立たない-目立つ	0.442	-0.022	0.357	0.082	0.117
つまらない-面白い	0.400	0.343	0.188	0.182	0.155
嫌い-好き	0.159	0.648	0.204	0.094	0.004
美しくない-美しい	0.178	0.858	0.252	0.000	0.070
下品なイメージ	-0.027	0.420	0.119	0.013	-0.005
不自然なイメージ	0.009	-0.572	0.348	0.018	0.004
家風らしくない-家風らしい	-0.276	0.408	0.123	0.118	-0.282
動的なイメージ	0.288	0.037	0.182	0.222	0.222
イメージに合い-イメージに合わない	0.165	0.209	0.092	0.013	0.183
印象に残らない-印象に残る	0.209	0.384	0.268	0.002	0.043
読みにくい-読みやすい	0.187	0.425	0.272	0.048	0.103
馴染みのない-馴染みのある	0.021	0.148	0.413	0.004	0.055
実用的なイメージ	-0.069	0.118	0.381	0.005	0.041
大衆らしくない-大衆らしい	0.284	-0.017	0.103	0.020	0.118
種類らしくない-種類らしい	0.168	0.200	0.102	0.232	0.081
普遍的なイメージ	0.282	0.029	0.189	0.176	0.070
和風なイメージ	0.441	0.043	0.152	0.119	0.055
人工的なイメージ	-0.001	0.383	-0.044	0.132	-0.288
因子名	連想性	評価性	連想性	連想性	伝達性
固有値	2.214	2.388	2.043	1.501	1.364
寄与率	12.57%	11.82%	10.92%	7.86%	6.82%
累積寄与率	12.57%	24.40%	34.83%	42.29%	49.11%

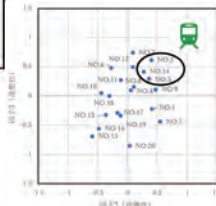


図2 因子2-因子3空間上の因子得点分布図

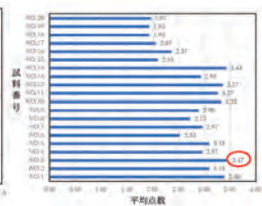


図3 試料に対する総合得点



コロナ禍を通しての居住環境整備に対する若者の意識調査

荻田 佑里子
Yuriko Ogita

高田 みき
Miki Takata

西山ゼミ



〈目的〉

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの人が不要不急の外出を控えるようになった。そこで、本研究は、新型コロナウイルスにより受けた様々な影響の中でも特に住まいの居住環境に着目し、その整備に対する感染拡大前後での意識の変化を把握することを目的とする。

〈方法〉

(1) 事前ヒアリングによる調査対象の決定

50人に対してヒアリング調査を実施し、18～25歳の若者が居住環境の整備を行っていたことを把握した。

(2) 家具販売動向調査と住居学の知識の整理による調査票の作成

店舗への聞き取り調査等により得た家具販売動向から、(1)の結果を調査したうえで、文献に基づき居住環境整備を防犯・生活・文化の3つの視点から質問を設定した。

(3) 感染拡大前後での居住環境整備に対する意識調査の実施

調査対象は18歳以上 25歳未満の男女計200名、それぞれ建築インテリアの学習経験ありの者となしの者とした。調査内容は感染拡大前後の居住環境整備への意識である。

〈まとめ〉

調査の結果は以下のとおりである。

- (1) 感染拡大前後で、防犯に対する意識の変化は見られなかったが、日常的な生活やインテリアにおいて意識の変化が見られた。
- (2) 空気清浄機や加湿器の購入など空気環境や、卓上ライトの購入など照明、インターネットの設備に対する意識が向上しており、在宅ワークの環境を整えることに関心が寄せられていた。

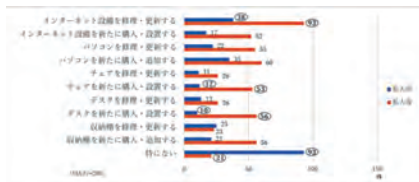


図1 仕事や学業のための行為

(3) 好みのインテリアイメージが「洗練さ」から「軽快さ」となり、インテリアの選択に対して「自分で選びたい」、インテリア購入の一番の決め手は「機能」を重視するようになるなどインテリアへの意識の高まりが見られた。

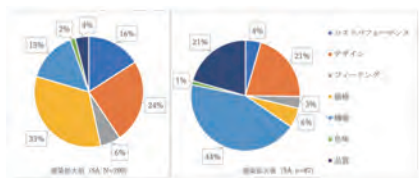


図2 インテリアエレメント購入の一番の決め手

- (4) 性別による意識の変化が見られなかった一方、建築・インテリアの学習経験別では、学習経験ありの人はなしの人に比して光源の色や省エネルギーへの意識を高めていたと考えられた。
- (5) 感染拡大前に比して拡大後は学習経験ありの人は「品質」、学習経験なしの人は「機能」が増大し、使いやすさへの意識が高まっていた。
- (6) 感染拡大前後で好みのインテリアイメージが変化した人は、光源の色や雰囲気重視しており、好みのインテリアイメージの変化には照明の影響が大きいことが伺えた。
- (7) 感染拡大後の生活満足度が高い人は、空気清浄機や加湿器の購入など空気環境と、クッションなど身の周りの小物に対して関心が寄せられていた。

謝辞：調査に協力いただいた皆様に感謝いたします。



広陵町を事例とした住民自治基本条例の 制定初期における一般住民の周知に関する研究

大隈 天斗
Takato Okuma

清水ゼミ



〈目的〉

近年、全国的に人口減少、少子高齢化、社会構造の変化によって、自治体の運営は厳しくなり、地域格差も広がっている。地域課題や住民のニーズに対して、行政だけで対応することは難しく、住民のまちづくりへの「参画」、多様な主体との「協働」が不可欠となってきた。現状を打開すべく、仕組みの一つである、「自治基本条例」を制定する市町村が増加している。自治基本条例を円滑に運用するために最も重要なことは、関係者間の条例の周知である。そこで、本研究では、まちづくりへの関わり方によって、住民自治基本条例の周知度に違いがあるのではないかと仮説を立て、その関係性の有無を明らかにする。

〈方法〉

広陵町すべての小学生の保護者を対象に実施し、真美ヶ丘第一小学校の保護者にのみ遊具の選定過程に参画してもらうという形で介入を行った。その後、図制定5か月後に周知度調査を実施した。

〈まとめ〉

介入を行った真美ヶ丘第一小学校の認知度は他の地域より周知度が高かった。(図1) 一方で、地域活動の参加の有無によって、認知度の違いが見られた。特に地域活動の中でも自主性の高い活動に参加している人たちの認知度が高いことがわかった。(図2) 真美ヶ丘第一小学校の認知度は他の地域に比べて高いことが分かったが、一方で、自主性の高い地域活動への参加度合いも高いことがわかった。(図3)

今回の研究では、真美ヶ丘第一小学校の保護者は他の地域に比べると、地域への関心が高いことは明らかになったものの、介入の有無による認知度の違いについては明らかにできなかった。

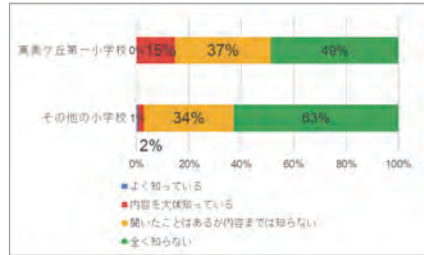


図1 真美ヶ丘第一小学校と他地域との周知度比較

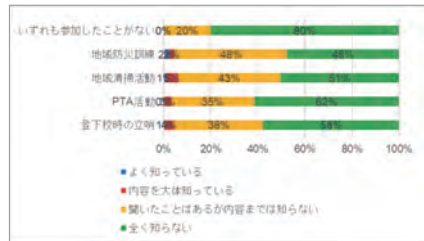


図2 地域活動への参加の違いによる認知度

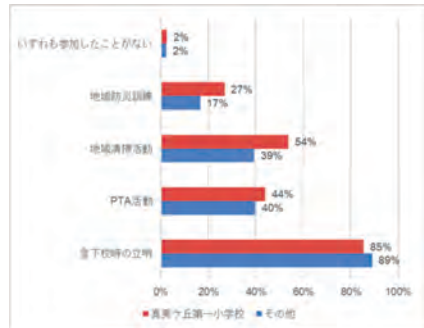


図3 真美ヶ丘第一小学校と他地域の地域活動の違い

謝辞：本研究のアンケート調査にご協力頂いた広陵町の小学校の保護者の皆様には感謝申し上げます



マスク着用が作業成績や心理状態に与える影響

松村 成貴

Masaki Matsumura

東ゼミ

〈目的〉

コロナ禍においてはマスク着用が必要不可欠であるが、学習や作業時に眠気や集中力の低下が感じられるようになった。そこで本研究では、マスク着用が学習や様々な作業成績に与える影響を明らかにすることを目的として、マスク着用に関するアンケート調査および被験者実験を行うこととした。

〈方法〉

マスク着用に関するアンケートは予備調査として被験者実験に先立ち、Googleフォームを用いて実施した。実験は被験者の自宅で自身の思う快適な環境において遠隔授業のツールとしても利用されるMicrosoft Teamsを用いて図1のタイムスケジュールで行い、以下に示す作業成績と作業前後の主観評価を比較検討した。マスク有無条件の実施順はランダムとした。

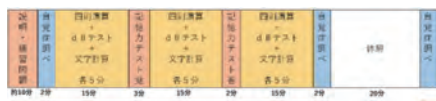


図1 タイムスケジュール

【作業成績】

四則演算・dIIテスト・文字計算を各5分×3セット+記憶力テスト10問

【主観評価】

自覚症しらべ (5段階25項目)

眠気感、倦怠感、集中度 (各10段階)

被験者は、20～22歳の男女大学生19名で、実験期間は2021年8月15日～23日である。被験者近傍の温湿度を温湿度データロガーで自動計測した結果、温度は24～30℃、湿度は50～70%で個人差はあるが変動は小さく、マスク着用条件による差はなかった。着用する不織布マスクは同一とし、マスク内の二酸化炭素濃度を検知管により測定した結果、室内濃度600ppmの環境下で2200ppmであった。

〈まとめ〉

アンケートで回答を得た118名(男女19-23歳)はほぼ全員が外出時にマスクを着用し、約9割が不織布マスクを着用していた。マスク着用に対して約6割が不快と感じており、その内容として、息苦しさ(70%)、締め付け感(44%)、眠気・倦怠感(24%)、喉の渇き(23%)、集中力の低下(19%)などを訴えていた。

実験結果については、着用による不快感を抱く被験者を抽出するなどの比較検討を行ったが、今回の実験条件下では、着用が直接的に作業成績に与える影響は確認されなかった。しかし、後半に実施した成績が良いという学習効果がみられた四則演算や文字計算においては、マスク着用時にその学習効果が若干低減する傾向が確認された。なお、簡易な校正作業であるdIIテストや記憶力テストでは学習効果はみられなかった。

自覚症しらべについては、マスク着用によらず作業後の疲労状況が上昇する傾向にあったが、目が乾く・物がぼやける・目が痛いなど一部の項目においてマスク着用時に上昇幅が大きい傾向が確認された。これは、マスク上部から呼気が漏れ、目にあたることで生じる弊害と考えられた。倦怠感も同様の結果であった。一方、眠気感には作業後に上昇傾向が確認されなかった。これは、画面上で他の被験者の様子が見えることでモチベーションが維持され、さらに作業内容が5分ごとに次々と変化し、飽きることなく作業ができたことが要因として考えられた。

作業環境や作業内容、継続時間や着用するマスクの種類によりパフォーマンスや疲労への影響度は異なると推測され、今後さらなるデータの蓄積が必要と考える。

謝辞: ご協力頂いた被験者の皆様に感謝いたします。



高齢者の熱中症予防に向けた 室内環境可視化ツールの検討

桐間 康彰

Yasuaki Kirima

東ゼミ

〈目的〉

近年、熱中症の搬送者における65歳以上の高齢者の割合はおよそ半数を占め、発生場所の約4割が住居と報告されている。

高齢者は暑さや喉の渇きを感じにくいため、室内の温熱環境を客観的なツールで確認する必要がある。先行研究において温湿度計の配布、色変化で温度を可視化する感温印刷による熱中症予防ツールを作成・配布してきた。本研究ではその使用感を調査して課題を整理するとともに、奈良県農林部在住の高齢者の熱中症に対する意識や行動、実際の生活環境の実態を踏まえてさらに使いやすく改良し、冷房器具の使用や水分補給などの予防行動を促すツールデザインを提案することを目的とする。

〈方法〉

熱中症予防ツールの使用感アンケートは、これまでに使用経験のある奈良市在住の24名、熱中症に対する意識や行動については宇陀市在住の20名、生活行動調査は上記に田原本町在住の13名を加えた高齢者を対象として自記式の質問紙調査を行った。

環境実測調査は宇陀市在住の高齢者20名を対象として居間と寝室の温度・湿度を10分間隔で1～2週間自動計測し、活動量測定および生活行動の記録を依頼した。

調査期間は2021年8月～9月である。

〈まとめ〉

環境実測調査では、室温が外気温よりも高い事例が散見され、日中で室温30℃以上の環境下でも温冷感で暑いという申告は少なかった。就寝時の寝室では半数が窓を締め切っており、昼夜ともに熱中症発症のリスクがあり、予防対策が望まれた。

アンケート調査では、エアコンの使用率は約半数と低く、後期高齢者では汗をかきにくいと回答する割合が高く、加齢に伴う生理機能の低

下がうかがえた。

また、温湿度をこまめに確認するのは3割で、熱中症経験者は居間・寝室ともに温湿度を意識していなかった。生活行動では、多くの高齢者がスケジュール管理にカレンダーを使用していたことから、介入に活用できると考えた。

従来のツールの使用感アンケートより、温熱環境を可視化することは評価されたものの、28～30℃以上の色変化（緑→黄）がわかりにくい、危機感を感じにくい、ツールのみでは次第に見る頻度が減るなどの課題が明らかとなった。

そこで、感温印刷の変色感度を上げ、暑さ指数（WBGT）の嚴重注意・危険の温度¹⁾で素早く反応するように改善するとともに、色変化だけでなく、「図柄の消色/発色による形の変形」という考え方を採用した（図1）。さらに、継続的に見てもらうために、このデザインをカレンダーの図柄にすることを提案する。

従来のツールの課題を改善した本デザインはインパクトを与え、危機感から予防行動に繋がると考える。高齢者ばかりでなく、子どもや色覚に障がいを持つ人も認識できる。温冷感には個人差があるため室温調節時に意見が異なるケースもあるが、客観的な指標となるこのツールを介して環境調節行動を促すというコミュニケーションツールとしての活用も期待できる。



図1 ツールのデザインイメージ

1) 日本生気象学会, 日常生活における熱中症予防指針 Ver.3.1

謝辞: ご協力頂いた被験者の皆様に感謝いたします。



店主の意向調査に基づく商店街の将来像に関する研究 - 奈良県桜井市本町通商店街を事例として -

小石 秀佳
Shuka Koishi

清水ゼミ

〈目的〉

商店街は中心市街地の商業機能の担い手として、地域で生活をする上で重要な要素の一つである。そのため、多額の公的支援を実施されているが、商店街としての機能を保つことが出来るか否かは、各地権者や建物所有者の意向によって左右される。本研究では、奈良県桜井市本町通商店街を事例として、商店街の現状と店主の意向を把握することで、商店街の将来像をシミュレーションし、今後の商店街に対する支援の在り方の知見を得ることを目的とする。

〈方法〉

本町商店街の店主に対し、下記の要領で調査を実施した。(表1)

時期	2021年1月
方法	アンケート調査 (直接配布、直接回収)
対象	本町商店街の店主 20名 (有効回答数 12名)
調査内容	店主の年齢、従業員数、現在の住まい、店舗の利用方法、ソラほんまちフェスタについて、今後の見通し及び展望

〈シミュレーション〉

シミュレーションの条件

- 現在の66区画の利用方法を100%として、その割合を示す。
- 現状の商店以外の部分は変化しないと仮定する。
- 66区画のうち商店が30%であり、店主の意向によりどのように変化するかを見る。
- 100個の正方形のビジュアルをもとに使用し、現状を基準として10年後、現店主の引退後、どのように変化するか視覚的に表現する。

シミュレーションの限界

- 表示する面積と実際の商店街の土地利用別の面積の比率とは一致しない。
- 今回は、店主の意向のみの調査を元に行っているため、商店以外の土地利用が変わる可能性は大いにあるが、商店以外の土地利用者の意向は反映できない。

〈まとめ〉

- 店主の多くは本町商店街が商店街として今後も賑わっていくことを望んでいた。
- 一方で、店主の意向を反映したシミュレーションからは、現在のまま状況が変わらなければ、10年後に全体の15%、数十年後には全体の5%しか商店が残らない。
- 仮に現在ある全ての空き家に店舗が誘致できたとしても、10年後の商店数は、現在とほぼ同じ割合、数十年後は現在の半数になることが明らかになった。
- さらに、廃業後はその場所にすみ続けることを希望する店主が大半を占めたことから、このままでは、大半が住宅地となることが分かった。

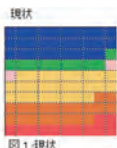
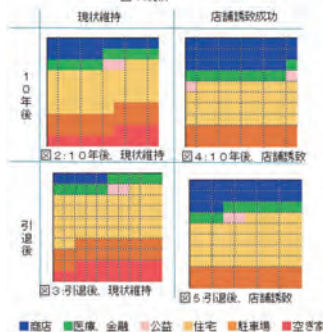


図1 現状



● 商店 ● 医療 ● 金融 ● 公益 ● 住宅 ● 駐車場 ● 空き家



多世代交流拠点の運営 ～コロナ禍二年目・対面での活動報告～

正楽 仁哉

Hitoya Shoraku

森田 舜

Shun Morita

清水ゼミ



〈目的〉

先行研究からは、高齢者世代と子育て世代に社会的な孤立という共通課題が潜在化していること、孤立は、「不安」「不便」「不健康」をもたらすことが明らかにされている。これらを解決する手段の一つとして、世代を超えた助け合いの仕組みが求められている。そこで大和高田市では、一昨年度より官民学協働での多世代交流拠点をさざんかホール1階の元レストランススペースを改装し運営している。しかし昨年度まではコロナ禍によりオンラインでの活動組織の構築にとどまった。

本年度は、昨年度までオンラインで活動してきた方々を組織化し、対面での円滑な運営に結びつけることを目的とする。

〈方法〉

組織運営の会議をオンラインで、多世代交流拠点の提供を対面で実施した。円滑な運営に結びつけるべく、本年度はただ活動するだけでなく、検証、改善を行いながら進めていきました。

7月までは、対面での運営に向けてオンライン会議での計画を立て、8月以降はきらステ現地での運営と、オンライン会議とオープンチャットでの検証、改善、計画を立て運営サイクルを回していきました。(図1)

〈まとめ〉

- 本年度も運営会議はオンラインで実施した。人間関係が構築されており、オンラインでの議論も皆、対面時と遜色なく行うことができた。(表1 ☆部分)
- 議論内容や親睦など、対面での運営会議の要望がでた場合は、対面とオンラインの併用で、感染状況を加味しながら、臨機応変に対応した。(表1 ★部分)
- 多世代交流拠点の提供については、7月29日にオープニングセレモニーを開催し、8月の第1木曜日から毎週木曜日に午前部(10:30～12:00)、午後部(12:30～14:00)と分けて運営を始めた。(表1 ●部分)
- 活動を重ねるにつれ運営メンバー自身が委ねられている活動以上のことを進んで担われるようになった。(写真1,2) この調査結果を踏まえ来年度はこれらの調査をもとに改善してけらと思う。

謝辞：本活動に際し、きらステ会の皆様、市民交流センターの皆様にはご協力頂きありがとうございました。



図1 運営サイクル



写真1 メンバー作のバッジ



写真2 メンバー作のパネル

表1 活動表

月	4			5			6			7			8			9			10			11			12															
日	9	23	14	28	11	25	9	16	29	30	5	12	19	21	26	2	9	11	16	23	25	30	7	9	14	21	23	28	4	11	13	18	25	27	2	9	11	16	23	25
オープン							●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会議	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆

●：イベント日 ○：通常運営日 ★：オンラインと対面の併用会議 ☆：オンライン会議



中古戸建住宅に対する認識の実態および意識変化に関する研究 ～近畿地方における20歳代若者を対象として～

萩原 智輝
Tomoki Hagihara

陳ゼミ 

〈目的〉

近年、放置された空き家の増加が問題視されているにも関わらず、中古戸建住宅流通市場の活性化は著しく低い。このことから、中古戸建住宅に潜在する価値を提供することで中古戸建住宅流通市場が活性化されるのではないかと疑問に思い調査することにした。将来子育て世代である若者にとって中古戸建住宅の購入を阻害している要因及び住宅購入を後押しする要因が何かを明らかにすることは有効流通や循環活用のために不可欠なことである。そこで、本研究では近畿地方に住まう20代男女を調査対象として、大阪府南河内地域における中古戸建住宅に対する認識の実態を把握し、古民家の改修事例を同時に提示した前後の意識変化を明らかにすることを目的とする。

〈方法〉

この目的を達成するための調査方法として、〈仮説1：近畿地方在住の20代若者は将来子育てのための住宅を購入する際に築年数を重視する〉、〈仮説2：「空間構成（間取り）」を後押し要因とする調査対象者は、古民家の改修事例提示による意識変化が最も大きい〉の2つを仮説におき、Googleフォームを用いて近畿地方在住の20代男女110名にアンケート調査、その内の聞き取り調査の実施に承諾した10名に聞き取り調査を行った。また、本調査では南河内地域に存する対象住宅A（1949年築）、対象住宅B（1971年築）、対象住宅C（2010年築）、対象住宅D（2017年）の築年数が異なる4つの中古戸建住宅を活用した。

〈まとめ〉

調査の結果、仮説1は購入を後押しする要因として「築年数」を重視している対象者は全体の約7%であったが（図1）、改修事例提示前における対象住宅A（1949年築）を住みたいと感じる順位に3位または4位に位置付けた対象者の理由として「築年数」を選択した対象者は全体の約69%であった（図2）。これらより、住宅を購入する後押し要因としては「築年数」を重視していないが、住宅販売サイトや販促チラシ等に掲載された表面的に提示された「築年数」に意識が向かい結果として「築年数」を重視していた。このことから、住宅購入前における考えでは仮説通りにならなかったが、住宅購入時における考えでは仮説通りになった。

仮説2は、改修事例提示前後における獲得ポイントの上昇率では「外観」を選択した調査対象者が最も大きく、「築年数」を選択した調査対象者が最も小さかった。また、「外観」・「空間構成（間取り）」・「広さ」・「改修不要」を選択した調査対象者のポイント上昇率は120%以上であったため、仮説通りにならなかったが、改修事例提示前後における意識変化の調査結果は、今後、中古戸建住宅の新しい提示方法を確立する必要性を示唆する。

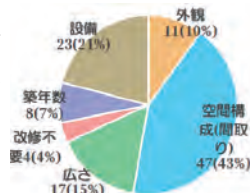


図1 後押し要因の割合

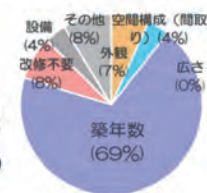


図2 対象住宅Aを3位または4位に付けた理由



奈良及び京都における景観色彩に関する研究

豊島 かれん
Karen Toyoshima

中井 惇介
Junsuke Nakai

李ゼミ 

〈研究目的〉

景観条例は、現在日本全国40の都道府県で制定されている。2005年6月1日の景観法が施行されてから罰則も規定され、強制力を持つものになった。とりわけ、奈良県では、世界に誇る歴史文化遺産や、それらと一体をなす歴史的風土と豊かな自然環境を保全するとともに、生活舞台としての良好な都市景観を創出するために、奈良県景観色彩ガイドラインによって定められている。また、全国で最も訪れたい観光地である京都市でも同様に、平成17年12月に京都市景観計画を策定され、以降、政策の充実と共に改訂され続けている。このように、その規制によって出来た街並みと、私たちのイメージする理想的な街並みには乖離があると考えた。そこで、条例の内容と私たちのイメージを照らし合わせ、どのような違いがあるのか、また条例の内容が実情に沿っているものなのかを街の玄関口と言われるJR奈良駅、近鉄奈良駅、JR京都駅周辺を中心にスマートフォンにて撮影した画像資料から自由に加工を施すなどの被験者実験を通して検討を行った。



図1 奈良の画像試料①で変更を加えた箇所

〈方法〉

- ①書面によるアンケート調査
- ②撮影した奈良と京都駅周辺の景観画像資料をAdobe photoshop v22.5.1により、奈良の資料を「より奈良らしく」「京都らしく」、京都の資料を「より京都らしく」「奈良らしく」と、自由に加工してもらい、その画像試料を色彩輝度計 KONICA MINOLTA CS-150にて計測した。

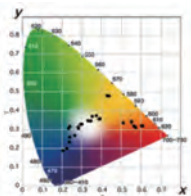


図2 xy色度図における画像資料の分布図(奈良)

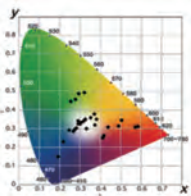
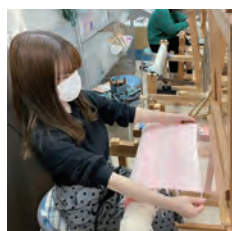
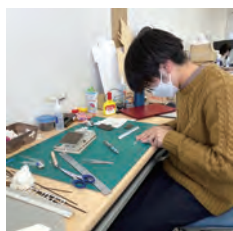
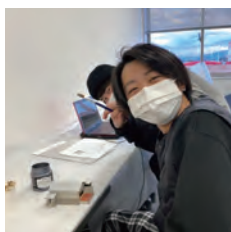
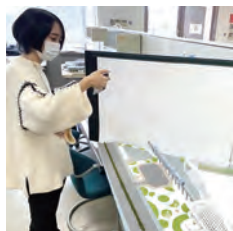


図3 xy色度図における画像試料の分布図(京都)

〈まとめ〉

京都は歴史的な街並みだけでなく、豊かな自然や近代的な建築物、ショッピングも楽しめるという昔と今が共存するようなイメージがあるのに対し、奈良は歴史、古風というイメージが京都に比べて強く、その他の魅力が評価されていないと考えられる。したがって、奈良においても、地域を細かく分割し、歴史的な景観を残していく地域と、今風に発展させるべき地域を検討することで、多くの人を持つ奈良“らしさ”を維持しつつ、さらに魅力的な地域になると考えられる。そのためにも、奈良駅周辺は地域の玄関口であり、イメージを損なわないようにしつつも、一方で多くの色を使用する、または高明度・高彩度の色を使うなど、奈良が伝統的な寺院等のイメージが強く、他に目立つものがない街というイメージから奈良“らしさ”を保ったまま歴史的な街並みの残る魅力的な都市になると考えられる。



講評会風景

論文講評会：2022年1月29日(土) D201 講義室にて

制作講評会：2022年1月29日(土)・30日(日) なごみ食堂にて



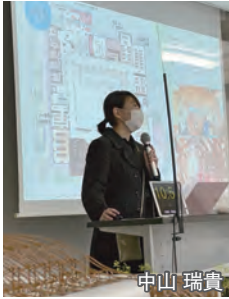


選抜講評会



2022年2月10日(木) P201講義室にて 発表者17名

- ◆ 学長賞 中山 瑞貴
- ◆ 優秀賞 稲葉 涼 澤田 実花
- ◆ 論文優秀賞 北尾 舞乃



中山 瑞貴



稲葉 涼



澤田 実花



北尾 舞乃



山田 向日葵



木村 瞳



高橋 颯



松村 成貴



岡本 萌樺



松村 颯



大滝 夏音



八田 采芽



富永 健悟



北野 芹香



廣原 雅夫



佐々木 りか



檀山 知花



畿 央 大 学

人間環境デザイン学科

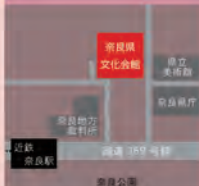
卒 業 研 究 作 品 展

2022.2.26 (土) 10:00-18:00

2.27 (日) 10:00-16:00

奈良県文化会館

奈良県奈良市登大路6-2 TEL. 0724-23-8921



Designed by 金子颯汰

たくさんのご来場 ありがとうございます。

展示会

2022年2月26日(土)・27日(日)
奈良県文化会館 D展示室にて開催





ゼミ集合写真



東



林田



清水



陳



西山



藤井



三井田



村田



李



講評

畿央大学人間環境デザイン学科では、幼児から高齢者、障がい者まですべての人にやさしく、使いやすいものづくりの基本「ユニバーサルデザイン」をテーマに、健康で心豊かに生活できる環境を創造する知識と技術の修得に取り組まれています。選抜講評会では、「建築・まちづくり」、「インテリアデザイン」、「アパレル・造形」の各分野から、選りすぐられた様々な作品が提示されました。建築、町並みの設計、校舎の活用や再利用、布地の染色や被服の制作などを興味深く拝見しました。多彩な卒業研究の作品には、利便性だけではなく、美しさと独創性が表現されています。自分の問題意識の中からテーマを設定し、多視点からデザインを考え、試行錯誤のプロセスを踏んだ問題解決の帰結が、卒業制作・論文作品として結実したものと思います。

環境、建築、デザインの領域における総合的な造形教育を通じて、本学の精神の一つである「美をつくる」を自ら身を持って体現しているのが、人間環境デザイン学科で学ばれた皆さんではないかと思えます。本学科で修得した造形に関する専門的な知識やその背景にある文化や諸科学についての総合的な教養を基盤として、今後ともより一層創造的思考を働かせ、日本と世界の文化の創造発展と社会に貢献して頂くことを心より祈念しております。

最後に、卒業までの間、親身にご指導頂いた先生方に感謝申し上げるとともに、今後とも卒業生を温かく見守って頂くことをお願いしまして講評とさせていただきます。

健康科学部長
植田 政嗣

人生の喜びの中で、大きなものの一つに、大切な人との出会いがある。

本心で語り合える友人、尊敬できる師、感動や思いを共有できる人、、、

君たちは大学生活の中で、大切な人を見つけ出せたのだろうか？

卒業研究や卒業制作が「大学4年間の集大成」と言われるのは、学んだことや調べたことを大学4年間の最後にまとめるからではない。先生や友人に感化を受け、悩む中で、君たちの本心を受け止めてくれる大切な人を見つけ出す機会がそこにあるからだと思う。

私たち教員はいつでも君たちを見ている。私たちは君たちの良き理解者であり、良き応援者でありたいと望んでいる。

もし、道に迷ったときは、この作品集を開いてほしい。そして、卒業制作に熱中した日々を思い出してほしい。

人間環境デザイン学科 学科長
三井田 康記

のびのびと学び友と語らう機会が減り、閉塞感の漂う学生生活だったことでしょう。

4年間の集大成である卒業研究においても、その影響を受けた作品や研究のテーマ設定がみられましたが、この状況にただ支配されるのではなく、新たな時代における提案をそれぞれの視点で考え抜いた成果に希望を感じました。みなさんのしなやかな感性に触れ、最も強いものでも、最も賢いものでもなく、唯一生き残れるのは変化できるものであるというダーウィンの言葉を思い出しました。

ご卒業を心より祝福し、今後の活躍を祈念しています。

人間環境デザイン学科 主任
東 実千代

卒業おめでとうございます。

大学生活の半分を、コロナ禍のなか、過ごすことになりましたが、それでも皆さんはしっかり学ぶことができていました。卒業研究は力作ぞろい、一人一人の情熱が伝わってきます。逆境にもめげず、前向きに取り組んだことは今後の人生の大きな糧になると思います。

人間環境デザイン学科では、人間から発想して衣服→インテリア空間→建築と幅広い学びができました。その強みを生かして、社会で大いに活躍されますよう、祈念しております。

西山 紀子

今、君たちと過ごした年月を振り返っています。あまりにも予想外の学生生活だったことでしょう。耐えきれなくなった人も、諦めた人も、跪いたがどうにもならなくなった人もいました。もちろん中には、逆風に耐え頑張れた人もありはしたのですが…

しかし、被害者は君たちだけではありません。残り少ない人生の少しの楽しみを奪われた人も、日々の糧を奪われた人も、命さえも奪われた人もいたのです。私事ですが、僕の義父も誰にも会えず一人で逝ってしまいました。彼らに比べれば君たちにはまだ充分な時間が、未来があります。そして、明けない夜はない（シェイクスピア/マクベス）のです。

夢を、希望を持って下さい。明日はきっと良くなる！

僕の夢は…いつかこの災禍が思い出となった日に、君たち皆と一献傾けることです。また会いましょう。大学でも、ヨルノマチでも。

藤井 豊史

今年度も、限られた時間、限られたスペースの中での卒業研究になってしまいました。そのような環境の中でもみなさんにとって一生に一度の卒業研究ですから妥協することは許されません。卒業研究はのびやかに取り組んでほしいと見守る一方で、スムーズに進めず固まったり、解決策が見つからず凍りついているあなた方を度々見かけました。しかし逃げることなく真摯に取り組んだ積み重ねの結果がみなさんを成長させました。

「今まで生きてきた中で一番頑張れた」と聞かされた時が、私の任務が完了したと感ずる瞬間です。みなさんと並走し、成長を見せてもらえたことを本当にうれしく思います。

4月から社会人ですね。

くれぐれも身体に気をつけて頑張ってください。

R棟3階の実習室からエールを送ります。

村田 浩子

卒業おめでとうございます。まだまだ終わりの見えないコロナ禍の2021年度、大学4年間の集大成としての卒業研究、大変お疲れ様でした。「予期せぬ」「想定外」の予測不可能な時代を生きる今、畿央大学で学んだすべてをお仕事に活かし、社会の中でしっかり立ち、自分を信じ、自分の道を生きてほしいです。大変なこともあるかと思いますが、4月からの新生活を楽しんでください。より一層のご活躍をお祈りしています。

李 沅貞

卒業おめでとうございます！

4月からみなさんはプロです。そこには多様な仕事があり、多様なプロが活躍しています。そういう時、みなさんは何を使って仕事に取り組みれば良いのでしょうか？

大丈夫です。みなさんには卒業研究があります。

辛い時、苦しい時、卒業研究を見返してみてください。そこには「自分にはこれができるんだ！」というあなただけの自信が詰まっています。そして、畿央大学と一緒に頑張った仲間たちの顔が浮かぶことでしょう。

みなさんのこれからの幸多からんことを祈っています！

林田 大作

例年ならば、大学で友達と支え合い、切磋琢磨しながら達成するはずだった卒業研究。今年もコロナ禍で、自分一人での戦いだった人が多かったのではないのでしょうか。ここに刻まれた作品や論文は、単なる最終課題ではなく、皆さんが自分自身に勝ち抜いた努力の結晶です。ここでの頑張りを糧に、どうぞ、自分の未来を切り開いていってください。

清水 裕子

今年の卒業研究にはより多様な課題が取り組まれ、新しい計画だけではなく、地域社会の既存空間再生や身近な素材の利活用の制作も見られました。

新たな課題に対して、皆さんはよく頑張って、挑戦してきたと思います。今後も、チャレンジ精神を持っている皆さんのご活躍を期待しています。

陳 建中

たくさんの制限の中、必死になって取り組んだ卒業研究の提出日、自分の事で精一杯のはずなのに、友達の提出物を一緒に確認し、間に合うように助け合う姿を見ることが出来ました。お互いに手を差し伸べあう姿はとても素敵でした。でも、決して誰もが出来ることではありません。努力を認め合い、優しく穏やかな心を持ったみなさんだからその行動だと思います。その心をいつまでも大切にしてくださいね。新しい場所でもきっと、そんな素敵な関係を築ける人と出会えるはずです。

みなさんの先生として、そして先輩として、母校畿央大学よりいつまでも応援しています。

小松 智菜美

昨年4月、みなさんと1年ぶりに再会しました。以前と変わらない様子で、「おかえり」と温かく迎え入れてくれたこと、嬉しく思っています。本当にありがとう。

大学4年間の集大成となる卒業研究。私の正直な気持ちを言うと「みんなならもっと頑張れたのに!」そう思いました。もちろん例年に負けず素晴らしい作品もありましたが、講評会で不完全燃焼な気持ちが伝わってきたときには少し残念でした。

何事もひとと比べる必要はありません。自分のベストを尽くせば堂々と胸を張れます。

会う機会は少なくなりますが、いつでも力になれるように私もがんばります。また会える日を心から楽しみにしていますね。

中井 千織

畿央大学 健康科学部
人間環境デザイン学科 教員

教授

学部長 植田 政嗣
学科長 三井田 康記
主任 東 実千代
西山 紀子
藤井 豊史
林田 大作
村田 浩子

准教授

清水 裕子
陳 建中
李 沅貞

助手

小松 智菜美
中井 千織

編集委員

陳 建中
中井 千織
小松 智菜美
後宮 尽我
石田 菜織
大森 鈴美
小柳 なつみ

門田 真奈
金子 颯汰
川上 伊純
月岡 菜桜
殿村 梨花
豊田 純菜
西岡 祐大
堀口 真生
三浦 百ヶ香
室 二葉
山本 陽菜

上西 剛己
角野 歩希
梶浦 佑太
梶原 彩香
春日 涼太
古澤 聖也
巢山 晟季
轟見 綾乃
根来 昂田
福井 農人
藤原 彩那
森本 陽大

以上



「卒業制作・論文作品集」16

2022年3月13日発行

発行 畿央大学

健康科学部 人間環境デザイン学科

代表 学長 冬木 正彦

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中 4-2-2

印刷 株式会社 明新社